第 2016-42 号

恵みと真理のニュース

2016 年 10 月の三次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

[証]　苦難の中で共にいらしゃって克服するように慰めと力をくださった神様に感謝と賛美を捧げます

私は子供の頃、何も知らないまま父について教会に通いました。教会にあるオルガンに合わせて歌て驚いてクリスマスにはプレゼントをもらうのがただ楽しくて通いました。私が小学校6年生だった頃は100万人が亡くなった韓国戦争6.25がありました。当時、金融組合の理事だった父はもうすぐ戦争が終わると言い真鍮の器は全て官舎の中の井戸に入れてだんすは壁を向けるようにした家族を連れてヤン村祖母の家に避難しました。しかし、父の話と違って戦争は早く終わらなかったです。私たちの家族に悲しい知らせが聞こえて来ました。キング先生を助けて民主主義者として“自主独立運動を叫んだ祖父が左翼に追い込まれて軍人から銃で殺された話を聞きました。祖父が好きだった讃美歌371章（三千里半島、錦繍江山神様くれた山…三千里(サムチョンリ)半島、錦繍江山神様くれた山…）歌いながら哀痛し父の姿が今もはっきり思い出します。共産主義者達が多くなり共産主義者に誤解された父もつれられ重い仕事をさせたと聞きました。
させられたか自分の意志か重い仕事をしたが父は9.28 失うしなった土地をとりもどすことの日にまもなく隠して暮らして仕方なく14歳になった兄を連れて山に入って共産主義者になってしまいました。遠い所に行ったと歌う讃美歌440章は私たちが父と離れる瞬間最後に歌った賛美です。私は幼い心でも試練があっても絶対あきらめないと決心しました。今まで自分が願っていた意思とは違て家の少女家長になっているが、神様の手を掴んで神様を委ねて絶対に悲しまないで任された役割に充実に生きようとしました。

朝ことに残っていた家族が手を掴んで泣きながら神様に祈りました。神様の助けだけがこの苦難を乗り越える雄一な道だったからです。まもなく私たちは父の話を聞きました。 共匪討伐で掴んでデジョン刑務所に入っているというのです。父の知り合いの人と救命運動する人々が1000人以上が署名して国に出しました。 幸い、父は執行猶予で釈放され、出ました。たとえ、兄は山で死にましたが、父は奇跡のように会って神様に感謝する礼拝を捧げました。
いつの間にか友達が小学校2年生になって私も学校に行くのが私の課題になりました。その時の状況にはありえない事でしたが勉強は時が過ぎたらできないと思って私は父に頼んで学校に行く許可を得ました。体が自由ではなかった父の代わりに小学校の卒業証もなかった私が中学校の校長に訪ねて頼みました。すると、かわいそうに思ったのか中学校2年生で入学をさせられました。次の日には妹も近所にある小学校5年で入学しました。私と共にいる神様、私に勇気と大胆さを与えてくださって出来たことです。
元々頭が良かった父が漢方医師の試験に合格しました。父が漢方病院を建って家の家計が安定された頃、旦那に出会いました。当時、貧しかった家の6人兄弟の中で長男だった彼が高校だけ卒業すると田舎で農業をするとしました。しかし、人々の性品を見る父は彼に大学に進学するように勧めました。私は当時、教育大学の卒業クラスでした。“ごみの中でバラが咲くのが出来ないと絶対、断る彼に私はこう答えました。”私がごみの中でバラを咲けましょうか？”
その話を聞いた友達は心配しました。” 牛うしも坂さかがあってこそ擦こすることができる”　と言い結婚を反対しました。私は”私が坂を作る。” としました。するとみんな理解できない表情をしました。友達の反対にも関わらず27歳に彼と結婚しました。父が経済的に助けて祝福してくださいました。しかし、結婚して初めて産んだ子供が脳性麻痺を悩ませました。私たちは祈りの休まなくていつも主を仰ぎながら子供を養育しました。息子は不自由な足で熱心に勉強して物理学の博士になりました。そして結婚して今幸せに生きています。神様の恵みです。
これが終わりではありません。旦那が急に脳梗塞で倒れてしましました。去年の11月15日でした。旦那は大小便を自らできず、言語もまともに疎通ができない状態の麻痺が来ました。当会長の牧師が病院に来られて祈ってくださいました。切に祈ってくださって次の日に牧師は”長老、12月25日のクリスマスの日には必ず起きて教会に来てください。イエス様の名によって祈ります。” と話をして家に帰りました。12月25日になると病床から40日ぶりで嘘のように旦那が起きてプョンテク聖殿に行って礼拝を捧げました。ハレルヤ！
人性を振り替えてみると1タレントで生まれてもその運命が変えて何倍のタレントで生きる恵みをくださった神様に感謝します。苦難になったのが私に有益だと言ったパウルの告白のように苦難の中でも感謝し賛美するようにしてくださった神様の恵みと愛に感謝します。これからも神様がくださる苦難と試験ならどんな状況でもヨブのように最後まで従順し信仰を守ります。接待に神様の手を離さないです。“主に従う人には災いが重なるが／主はそのすべてから救い出し。” （詩編34編19節）ハレルヤ！神様！感謝します。

[信仰コラム]　変更できない重大な原則

”... これらいっさいのものは、御子によって造られ、御子のために造られたのである。彼は万物よりも先にあり、万物は彼にあって成り立っている。” （コロサイによる手紙 1:13～17）

自然法則は自ずから生じたのではなく、創造主神様が御造りなさいました。自然法則にも下地になる原則があります。その原則は万物の存在原因と目的に該当することで人にも適用されます。本文にその原則が啓示されております。” これらいっさいのものは、御子によって造られ、御子のために造られたのである。” と記録されております。この原則を全ての人生が知って自分の生活に適用すべきです。本文に啓示された二つの大原則を調べてみましょう。
第一の原則は、キリストによる生活であります。
” これらいっさいのものは、御子によって” 創造されたとしました。キリストによって天地万物が存在するようになりました。そして” わたしたちは、この御子によってあがない、すなわち、罪のゆるしを受けているのである。” としたのでイエスキリスト以外には救い主がいません。キリストによる生活とはイエスキリストから離れては何もできないことを知って、これに合うように生きていくことを言います。大きく次の通りに三つの意味があります。
一つ、イエスキリストの恵みの中で生きることを意味します。人間の霊的な状態は悲惨です。不義で不正であり、盗みをして殺して滅びさせるサタンの支配にあり、遂に地獄刑罰に処されます。従って、この世で財物と地位、名誉を持ったとしても実は、その全てが空しくなる日がまもなく到来します。このような人生がイエスキリストを信じると罪の許しを得てとこしえの命を得るようになり神様の子供、天国市民になります。霊的に誠に豊かになります。
二つ、キリストの愛の中で生きることを意味します。愛はこの世で人が生存していくことに最も重要なことで一つであります。人間の愛は時間と空間の制限を受けたり難なく砕けて年月の流れに従って退色されることもあります。その反面、イエスキリストの愛は永遠に変わらない、限りなく深くて広くて高い愛であります。誰でもイエスキリストの愛に自分を全て任して生きていくと神様の慰めと能力を供給されます。人生を明るく肯定的な姿勢で生きることができます。
三つ、キリストの御言葉の中で生きることを意味します。人間の哲学と思想は時間が経て時代が変わることにより変化しますが、キリストの御言葉は永遠に変わりません。聖書に記録された御言葉を信じて従うと神様が彼の人生を担い主管してくださいます。
第二の原則は、キリストイエスのために生きることであります。
本文に” これらいっさいのものは、御子のために造られたのである。” と記録されています。キリストのために生きることについて具体的に調べてみましょう。
一、主を礼拝しながら生きることを意味します。人は神様を礼拝しながら生きるように創造されました。キリスト人は何事をするにも主の光栄が優先的な行動基準になるべきです。神様の光栄を表わせる核心は礼拝です。私達が生きていく動機と目的が神様を礼拝することである時、誠な価値と意味を持つようになります。
二、主の恵みと愛を述べ伝えながら生きることを意味します。この世で最も美しくて尊い消息はイエス様が罪人を救うためにこの世にお越しになり十字架につけられ贖いの死を死んで、葬られて三日目に復活なさい昇天なさったという消息であります。この消息を信じる人は罪を許されとこしえの命を得て、神様の子供になり天国の市民になります。イエス様は先に信じた者達の口を通じてこの福音が広く伝えられることを願われます。なので、主のために生きる人は福音を述べ伝えるべきです。福音伝道を良くするためには三つの要件を持つべきです。まず、魂救いのための燃える願いが必要であり、次は懇切で持続的なお祈りが必要でありそして、献身と苦労が必要であります。
キリストに” よって” 生きることとキリストの” ために” 生きることは神様の創造の原理に合うように行うことであります。このような原則を知ってその原則を適用する人は賢しくて福のある人です。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

健康と治癒を邪魔する心のカーテン

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

神様はあなたのたましいがいつも恵まれていると同じく、あなたがすべてのことに恵まれ、またすこやかであるようにと、わたしは祈っている。　この事実が多くの形で聖書に記録されています。 元気な生のために私たちが実践しなければならないことに対してもおっしゃいました。 聖書には心の状態が各種疾病と治癒に関連があるのを啓示しています。 “油断することなく、あなたの心を守れ、命の泉は、これから流れ出るからである。”(箴言 4:23)、“ 心の楽しみは良い薬である、たましいの憂いは骨を枯らす。”(箴言 17:22). マラキ 4 章 2 節に記録されるのを “しかしわが名を恐れるあなたがたには、義の太陽がのぼり、その翼には、いやす力を備えている。あなたがたは牛舎から出る子牛のように外に出て、とびはねる。” としました。 ここに言及した ‘義の太陽’はイエスキリストを示します。 イエスキリストはエホバを敬い畏れる人の魂と肉体と生活に治療する光線を発します。 ところで窓が閉まっていて厚いカーテンが垂れ下げていれば光線が家に入って行くことができないです。 だから私たちの心の窓にカーテンが垂れないように気を付けなければなりません。 これから私たちの心に垂れることができないようにしなければならないカーテンに対してよく見ます。

第一は、憎しみのカーテンが心に垂れないようにしなければなりません。

憎い考えが私たち心に垂れれば身と心が損傷を被るようになります。 憎しみという考えのカーテンをとり除こうとすればその対象を赦さなければなりません。 イエス様は教会と聖徒に赦しの原則をくださいました。 “もしあなたの兄弟が罪を犯すなら、行って、彼とふたりだけの所で忠告しなさい。もし聞いてくれたら、あなたの兄弟を得たことになる。もし聞いてくれないなら、ほかにひとりふたりを、一緒に連れて行きなさい。それは、ふたりまたは三人の証人の口によって、すべてのことがらが確かめられるためである。もし彼らの言うことを聞かないなら、教会に申し出なさい。もし教会の言うことも聞かないなら、その人を異邦人または取税人同様に扱いなさい。”(マタイによる福音書 18:15～17)と言いました。 “あなたがたは、自分で注意していなさい。もしあなたの兄弟が罪を犯すなら、彼をいさめなさい。そして悔い改めたら、ゆるしてやりなさい。”(ルカによる福音書 17:3)と言いました。 教会や自分に害悪をかける者に対して座視せずに適切に措置しなければなりません。 しかし憎い感情は排除しなければなりません。 憎しみは私たちの健康をこわします。 憎い感情を処理する賢い方法があります。 その対象を可愛想に思うのです。 そして憎しみのカーテンが心に垂れることができないようにしなければなりません。

二番目は、癖忌心と妬みのカーテンが心に垂れないようにしなければなりません。

他人の発展と成功に対してうらやましがって競争心を持つことは変な事ではないです。ただ嫉む考えは排斥しなければなりません。 イスラエルの初代王サウルはタビテに対する癖忌心を治めることができなくて彼が享受することができる光栄が恥辱にならせました。 サウル王が癖忌心を持つようになった発端はこのようです。ブルレセッ軍隊がイスラエルを侵攻しようと陣を張るとサウル王が軍隊を導いて出て対陣しました。 ブルレセッ軍隊の巨人ゴリアテが喧嘩を掻き立てるために出て叫んだらイスラエル軍事は怖がって対敵して出る者がいないです。ところで兄さんたちに食べ物を伝達しに来たタビテがこれを見て聖なる怒りを感じました。タビテはサウル王を説得して許しを得てゴリアテと対決しようと出ました。 タビテがゴリアテを向い合って対して駆け付けながら投げた石がゴリアテのひたいに差し込まれるとゴリアテが倒れました。 タビテは駆け付けてゴリアテの刀を抜いてその首を切りました。 戦争がイスラエルの勝利で終わりました。
イスラエル民は軍人を迎えながら歓呼して歌うのを “サウルの殺した者は千 千 でありタビテは万 万だ。” としました。 サウル王がその言葉をきいて不快に思ってタビテを嫉み始めました。 その後サウル王はタビテを殺そうとさまざまな方法を動員しました。 極甚な癖忌心によって眼力を失くしたサウルは遂に自滅の道に行ってしまいました。 癖忌心と妬みのカーテンを心でとり除こうとすれば自分がイエスキリストにあって受けた福を思わなければなりません。 善良で忠誠されるように神様を仕えることに生の意味と価値を置いている人は自分を他人と比べるによった劣等感が生じないです。聖徒の皆さんは癖忌心と妬みのカーテンが心に垂れることができないようにすることで活気に満ちるように生きて行くように願います。

三番目は、怒りのカーテンが心に垂れないようにしなければなりません。

創世記 4 章に見ると最初で怒りを出した人のお話が記録されています。 アダムとエバはカインとアベルを生みました。 歳月が経ってカインは地の所産で神様にお供えを差し上げたしアベルは子羊の初子とその油で神様にお供えを差し上げました。 神様がアベルと彼のお供えを嬉しく受けたがカインと彼のお供えは受けなかったです。 カインは神様の差別に対して甚だしく悔しく思って顔色が変わりました。
“アベルもまた、その群れのういごと肥えたものとを持ってきた。主はアベルとその供え物とを顧みられた。しかしカインとその供え物とは顧みられなかったので、カインは大いに憤って、顔を伏せた。そこで主はカインに言われた、「なぜあなたは憤るのですか、なぜ顔を伏せるのですか。” その責めつけて悔改を促しました。 それなのにカインは怒りを治めないで弟アベルを野で呼び出して打ち殺しました。 カインは怒りをとり除くことができなかったから人類最初の殺人者になりました。 いくら柔順で温柔な人でも全然怒らない人はいないです。聖書は “怒りをおそくする者は勇士にまさり、自分の心を治める者は城を攻め取る者にまさる。”(箴言 16:32)と言ったし “怒ることがあっても、罪を犯してはならない。憤ったままで、日が暮れるようであってはならない。また、悪魔に機会を与えてはいけない。”(エペソ人への手紙 4:26,27)と言いました。 怒るのをのろくすれば 怒りがたくさん緩和されて激怒しなくなります。 怒りを長く抱いてはいけないです。 怒りの感情は速くとり除くほど良いです。

四番目は、懸念と心配のカーテンが心に垂れないようにしなければなりません。

心配のカーテンが心に垂れないようにするためには心配を神様の手に任せなければなりません。“神はあなたがたをかえりみていて下さるのであるから、自分の思いわずらいを、いっさい神にゆだねるがよい。”(ペテロの第一の手紙 5:7) としました。 “何事も思い煩ってはならない。ただ、事ごとに、感謝をもって祈と願いとをささげ、あなたがたの求めるところを神に申し上げるがよい。 そうすれば、人知ではとうてい測り知ることのできない神の平安が、あなたがたの心と思いとを、キリスト・イエスにあって守るであろう。”(ピリピ人への手紙 4:6,7) としました。 心配と懸念が心の窓に垂れ下げていれば心が沈滞するようになります。心の沈滞は病菌に対する抵抗力を劣らせて免疫機能を低下させます。 “心の楽しみは良い薬である、たましいの憂いは骨を枯らす。”(箴言 17:22) としました。

五番目は、悲しみのカーテンが心に垂れないようにしなければなりません。

人々は生きる間に悲しいことに数えきれなく会います。 しかし悲しみのカーテンを心に長い間垂れてはいけないです。 聖徒は悲しい事に会ってもその悲しみを乗り越えることができる所望を持っています。 使徒パウロは言うのを “兄弟たちよ。眠っている人々については、無知でいてもらいたくない。望みを持たない外の人々のように、あなたがたが悲しむことのないためである。”(テサロニケ人への第一の手紙 4:13) しました。 聖徒には死がこの世の中の苦しみを締め切って永遠な安息の家である天国に入る関門に過ぎないです。 聖徒には死による別離にもまた会う栄える集まりが前提されています。 聖徒はこんな所望によって世の中の人々と一緒に悲しまなくなるで悲しみのカーテンをすぐ押しのけてしまうことができます。最大の悲しみを抱かれてくれる死にも天国と復活の所望で乗り越えることができる聖徒はどんな悲しみでもまっすぐに捲り上げて投げ捨てることができます。 そして助け主の聖霊が悲しみにあった聖徒を慰めます。 悲しみのカーテンが皆さんの心に垂れたら神様が約束した所望のお言葉を声を出して読んでください。 そして聖霊様の慰労を求めてください。 そして迅速に悲しみを取り除けてください。

六番目は、恐れのカーテンが心に垂れないようにしなければなりません。
恐れは私たちの精神と肉体の正常な機能を喪失させます。 全能な神様がともになさって手伝ってくれるという信仰は恐れをとり除いてくれます。 恐れが心に垂れたら皆さんは神様がイザヤ予言者を通じてくださったお言葉を暗誦してください。 “恐れてはならない、わたしはあなたと共にいる。驚いてはならない、わたしはあなたの神である。わたしはあなたを強くし、あなたを助け、わが勝利の右の手をもって、あなたをささえる。”(イザヤ書 41:10)

憎しみ、癖忌心、怒り、心配、悲しみ、恐れはまるで窓を阻んで通風と採光を阻む厚いカーテンのようです。 私たちの心を清潔で明るくしてくれる活力と光が入って来ることを邪魔する役目をします。 私たちがよく見たとおり聖書は私たちにこのような否定的な情緒が私たちの健康に有害な事実を明らかに現わしています。そして私たちの身と心を元気にさせる治癒の能力と光で満たす方途を教えてくれています。皆さんは神様が下さるこの貴重な教えどおり行って健康と治癒の恩寵を享受してください。